

おはなし会



豊橋市立松葉小学校

PTA 広報部

令和4年度 No.6

今年度もおはなし会がスタートしています。放送室からテレビ画面を通してのおはなし会も3年目になりました。



【朝のおはなし会 教室でのようす】



📷 朝の時間と昼の時間の放送があり、**今回はお昼の休み時間に放送するところ**を取材しました

放送前に、本の画面写りを綿密に調整していました。

前日が雨だったこともあり、ほとんどの子が運動場で遊び始める中、何人の子がどんな状況でおはなしを聞いてくれるのかがわかりません。

子どもたちの反応がわからない中で読むことの難しさがあると聞きました。

以前は音楽室で開催されていたお昼のおはなし会も、給食時間に放送したり、学年ごとに放送時間をずらしたり、先生方とボランティアさんが試行錯誤しながらも実施してきていることがわかりました。





📻 放送を終えた神谷純子さんと山口典子さんにお話を伺いました

—— おはなし会を始めたきっかけは？

神谷さん 何年も前のことですが、松葉校区に引っ越してきて、子どもが松葉小に通うことになり、子どもからおはなし会の存在を聞きました。読み聞かせの経験があったことと、他のお母さんとのつながり、地域のつながりがほしかったので参加しました。

山口さん 教員を退職した年に、当時のおはなし会のボランティアの方に誘われました。教員のときから児童に本を読むことが好きだったので、誘われたときは嬉しかったです。



—— おはなし会のボランティアを続けている理由は？

神谷さん とにかく本が好き。そして、読み聞かせているときの、本を見る子どもの目が好き。今は子どもたちの顔が見られないからさびしいです。

山口さん 子どもの表情を見るのが楽しいからです。絵本も大好きです。

—— 松葉小の児童たちにメッセージをください。

神谷さん どんな本でもいいので、自分の興味がある本をどんどん読んでほしい。本の中でいろんな発見をしてほしい。

山口さん 本を読むと、いろんな世界が広がります。本を好きになってほしい。



神谷さんも山口さんも、子どもたちそれぞれに、好きな本が見つかるといいと言っていました。デジタル社会の中でも、本を手にとることの価値は変わらないと。

そして、早くみんなの前で読めることを心待ちにしていました。



教室では、子どもたちが「この本知ってるー」「このあとどうなるのー」など、テレビ画面に向かって声を出していたり、真剣に本の中の世界に没頭していたりするようすが伺えました。最後には拍手が湧き上がって、学校中に響き渡っていました。



神谷さん、山口さん、貴重なおはなしを聞かせていただき、ありがとうございました。

また、おはなし会のおかげで、子どもたちがさまざまな本に触れる機会に恵まれているとわかりました。子どもたちには、これからもたくさんの本を読んで、いろいろなことに興味をもってほしいと思います。

(ホームページ作成担当 神谷 由貴 篠原 綾子 弘中 沙織)